

小型 FM ワイヤレスマイクキット

- 音声を FM 電波によって送信するキットです。
- 乾電池 1 本の 1.5V で動作し、小型化が図れます。

キット内容

種類	部品番号	規格・値	数量	備考
トランジスタ	TR1	2SC2458-Y	1	
	TR2	2SK192A-Y	1	
	TR3	2SC1906	1	
ダイオード	D1	1SV101	1	可変容量ダイオード
抵抗	R1	1K Ω	1	茶黒赤金
	R2, R5	100K Ω	2	茶黒黄金
	R3	2.2K Ω	1	赤赤赤金
	R4	10 Ω	1	茶黒黒金
	R6	10K Ω	1	茶黒橙金
コンデンサ	C1, C2, C6, C7	0.1 μ F	4	セラミックコンデンサ
	C3	15pF	1	セラミックコンデンサ
	C4	10pF	1	セラミックコンデンサ
	C5	47pF	1	セラミックコンデンサ
コイル	L1	144MHz	1	FGZ コイル(互換品)
	L2, L3	10 μ H	2	マイクロインダクタ 茶黒黒銀
マイク	MIC		1	
スイッチ			1	
電池ボックス	BATT		1	単 5 電池 1 本用
専用基板			1	

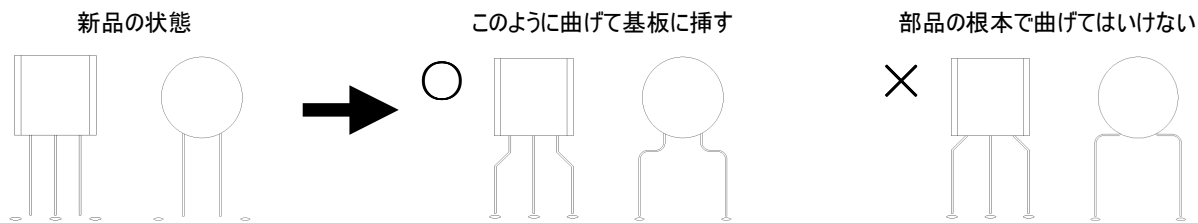
工作に必要なもの

ハンダごて	一般的な電子工作用
ハンダ	細めのハンダが使いやすい
電池	単 5 電池を 1 本
配線材	1.5~2m 程度(アンテナ用)

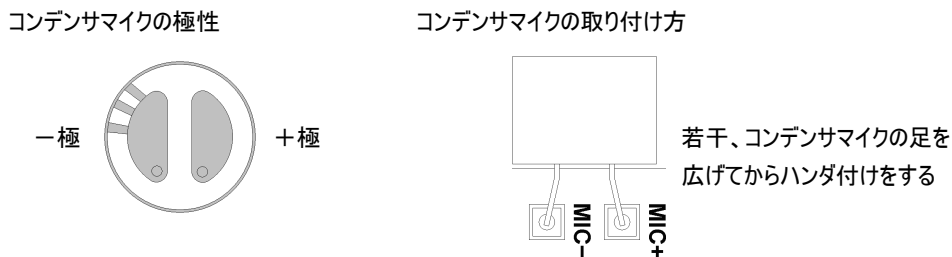
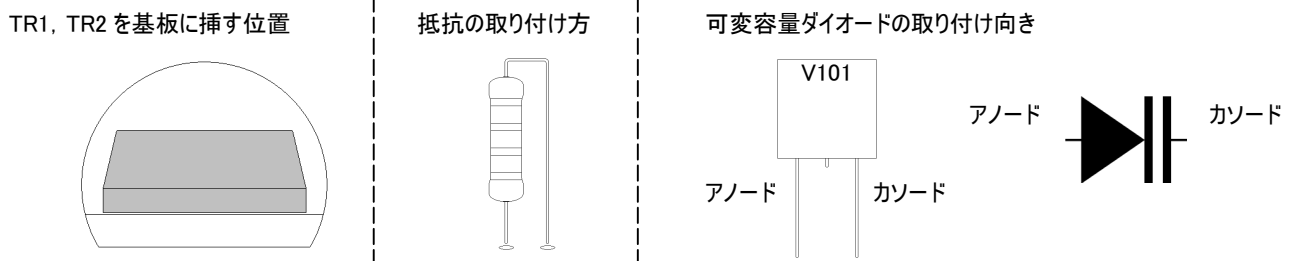
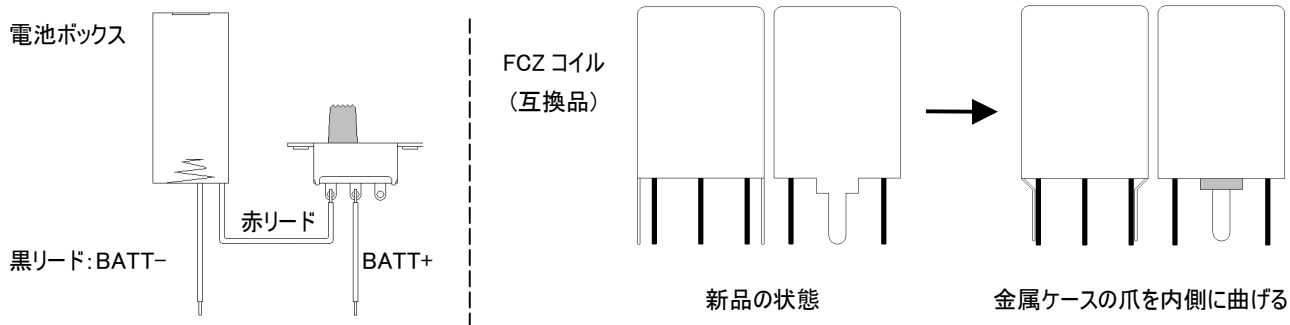
作成アドバイス・注意

- ケースに入れない場合は、テーブルへ傷がついたりショートを防ぐため、なるべくスペーサを取り付けて基板を浮かせてください。
- あまりマイク感度が必要でない場合は、R4 の値を上限 100 Ω までの範囲で変更することにより、マイク感度を調整することができます。
- 付属のスイッチは大型のもので、小型化を望む方はお好みのスイッチをご利用下さい。
- マイクは 2 端子ありますが、金属ケースと繋がっている端子がマイナスです。
- アンテナ線は 1.5m ほどを基板の ANT 穴にハンダ付けします。

トランジスタの足は、本体から数ミリ離れたところで曲げてください。部品の根本で曲げてはいけません。
 コンデンサは、そのままの幅では基板の穴に入らないもののみ、同様に曲げ加工をしてください。



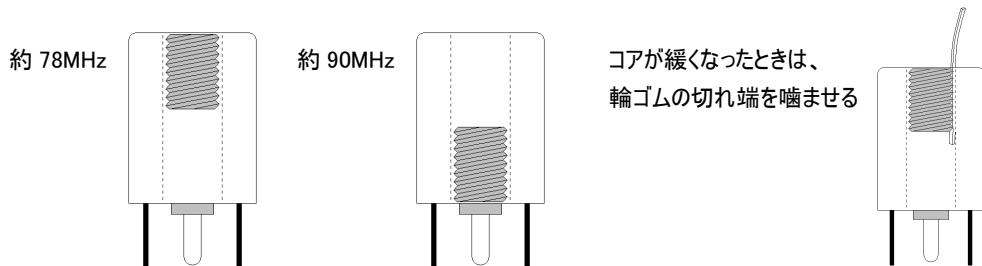
その他の部品は、下記の要領で取り付けてください。



使い方

電池をセットし、テスターをお持ちの方は回路電流が 8mA 程度になることを確認してください。

まずラジオの周波数を放送がない箇所にてチューニングし、基板上にある FCZ コイルのコアをゆっくり回して送信周波数を調整します。コアがコイル本体上部にあるときが約 78MHz、コアを奥にしたときが約 90MHz です。



コアが緩くなったときは、輪ゴムの切れ端をコアとコイルの間に入れて下さい。

コアが奥に引っ込んだままで上に持ち上げられなくなった場合は、基板裏の穴から細い針金を差し込み、上へ押し上げながらコアを回して取り出します。

サポート情報など

サポートや技術関連の情報は、キット共通マニュアルをご覧ください。